

これからの教育コミュニティづくりの推進方策について

*平成19年度第1回社会教育委員会議配付資料

●教育改革プログラム（平成11年～20年）

- 総合的な教育力の再構築
 - ・教育コミュニティの形成
 - ・家庭における教育・子育て機能の強化

*資料5

◎取り組みの成果と新たな「きざし」

- 成果 教育コミュニティづくりの基盤形成
 - ・全中学校区にすこやかネットを設置
 - ・学校・家庭・地域の協働の考え方の広がり
 - ・地域教育活動の活性化

○地域に生まれてきた新たな「きざし」

- ・積極的な家庭教育支援の取り組み
- ・学校の教育課題への取り組み
- ・次世代の発掘・育成に向けた取り組み

●大阪の教育ビジョン（仮称）
（平成21年～30年）

■平成11年1月 提言

「家庭・地域社会の教育力向上に向けて
～教育コミュニティづくりの勧め～」

【取り組みの方向性】

- ・地域社会の教育力の向上
- ・個別・分離から協働へ

【施策】

- ・教育コミュニティづくりの推進
学校・家庭・地域の三者の協働

○課題

- ・限られた人による活動から、すべての人の参加へ（多様性）
- ・一過性の取り組みから、日常的な取り組みへ（日常性）

大人の
学び

活動への
参加促進

【長期目標】

学校・家庭・地域の三者の協働による教育コミュニティづくりの拡大・発展

【10年間の目標】

- 地域が家庭に働きかけることをきっかけに、「家庭と地域」が一体となって学校と協働し、子どもの「豊かな育ち」や「学ぶ意欲」を支える活動の推進

- 市町村・地域における、自主的・自発的な教育コミュニティづくりの推進体制構築に向けた支援

- 5年間をめどとした取り組み

■平成15年1月 提言

「子どもの課題に対処するため、大人に対して
取り組む社会教育行政のあり方について」

【取り組みの方向性】

- ・「子ども」からはじまる大人の「まなび」

【施策】

- ・親学習プログラム

■平成19年3月 提言

「府民の社会参加を促進する社会教育行政のあり方」

【取り組みの方向性】

- ・ソーシャル・キャピタル（注）を豊かに
- ・需要と供給のマッチング（既存リソースの有効活用）

【提案】

- ◇キーワード：「つなぐ」
 - ・つなぐ人材の育成
 - ・「道具箱」

【対象】

- ・きっかけがあれば参加意欲のある人⇒徐々に拡大

（注）ソーシャル・キャピタル直訳すると「社会資本」。人間関係のネットワークやそのネットワークが育む相互理解、信頼、規範などをさす。

国の動向

●平成18年12月（新教育基本法）

- 学校、家庭及び地域住民の相互の連携協力が必要
- 国及び地方公共団体は、家庭教育を支援するために必要な施策を講ずる

●平成19年1月（中教審答申）

- 次代を担う自立した青少年の育成に向けて
- 家庭で青少年の自立への意欲の基盤を培おう
- 青少年が社会との関係の中で自己実現を図れるよう、地域の大人が導こう

●平成19年1月（中教審中間報告）

- 新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について
- 学校・家庭・地域の連携協力を促進するため、学校教育との連携協力及び家庭教育への支援が社会教育行政の責任